

「この人 01」

中村遠路 97歳 大分県

- 八 木 俳句と滑稽についてのお考えをお聞かせください。
- 中 村 俳句は滑稽が元祖ですからね。
滑稽なくしては俳句としての存在感はないのですよ。
ただし、川柳とは異なりますね。
川柳はすべて説明してしまうから読者が参加する余地がありません。内容的にも川柳はどぎつくなってしまうからね。
川柳の一步手前で踏みとどまるのが滑稽俳句だろうね。
芭蕉の「おもしろうてやがてかなしき鶉飼かな」が私の滑稽の基準です。
- 八 木 [50句をデータベースに掲載](#)させていただきましたが特に好きな作品についてお話をください。
- 中 村 艶のある滑稽句としては「竹婦人抱かれて熱を出しにけり」、哀しみのある滑稽句としては「電飾をされて裸木にはなれず」、言葉の面白さでは「鰻の日つかみどころのなき噂」、庶民の詩としては「貧乏に閑ありあまる寝正月」というところでしょうか。写生句としては「ショベルカー凍土銜へしママ眠る」ぐらいかな。
- 八 木 中村さんの人生にとって滑稽俳句づくりはどのようなものでしたか。
- 中 村 俳句は人生感に裏打ちされたものです。
特に滑稽は精神的に高いものが要求されます。
滑稽をやってきたからいつまでも精神的に若くていられるような気がします。
- 八 木 ありがとうございます。
これからも良い滑稽句をお見せください。